「伝わるよ・僕にもできるよ」を支援する

～小学部肢体不自由の児童での取り組み

大分県立別府支援学校鶴見校
教諭　渡辺　耕平

対象児童のKくん

・小学部６年生
・脳性麻痺
・肢体不自由と
　知的障がい
・隣接する療育施設に
　入所

一般的な実態

・日常生活のほとんどに介助を要する

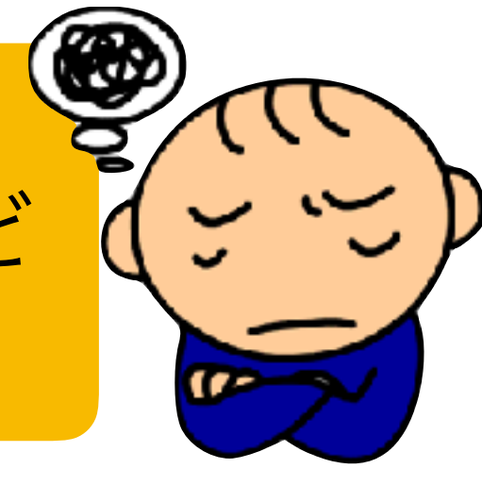
・片手で操作できる車椅子を使用し、自分で動けるようになったがまだ操作は苦手

コミュニケーション面での困り

・教師の簡単な言葉掛けは理解する
・人と関わるのが好き、自分で話そうとする

言葉が不明瞭・他者に伝わりにくい

・担当は、これまでの関わりからわかる
・他の先生や友だちは聞き取れないことがほとんど
・担当に頼っているコミュニケーション



活動する上での困り

・多くのことに興味を示す
・自分もしてみたいという気持ち

↓

自由に動けない・ひとりでできることが少ない

↓

・教師と一緒にするなど受け身になっている

活動目的

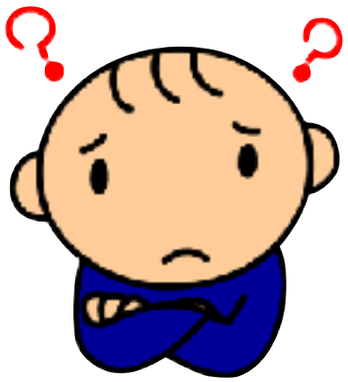
伝えやすい手段で
伝えられるようになる

一人でできる経験を増やすこと

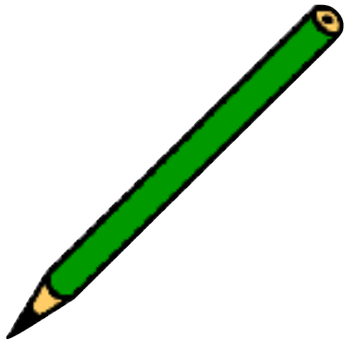
実践１－１　コミュニケーション面の実態の見直し

・実践を始めるにあたり、改めて実態を記録にとった

・Kくんがどんな手段で、誰に、何を伝えようとしているのか、何が伝わっていないのか？



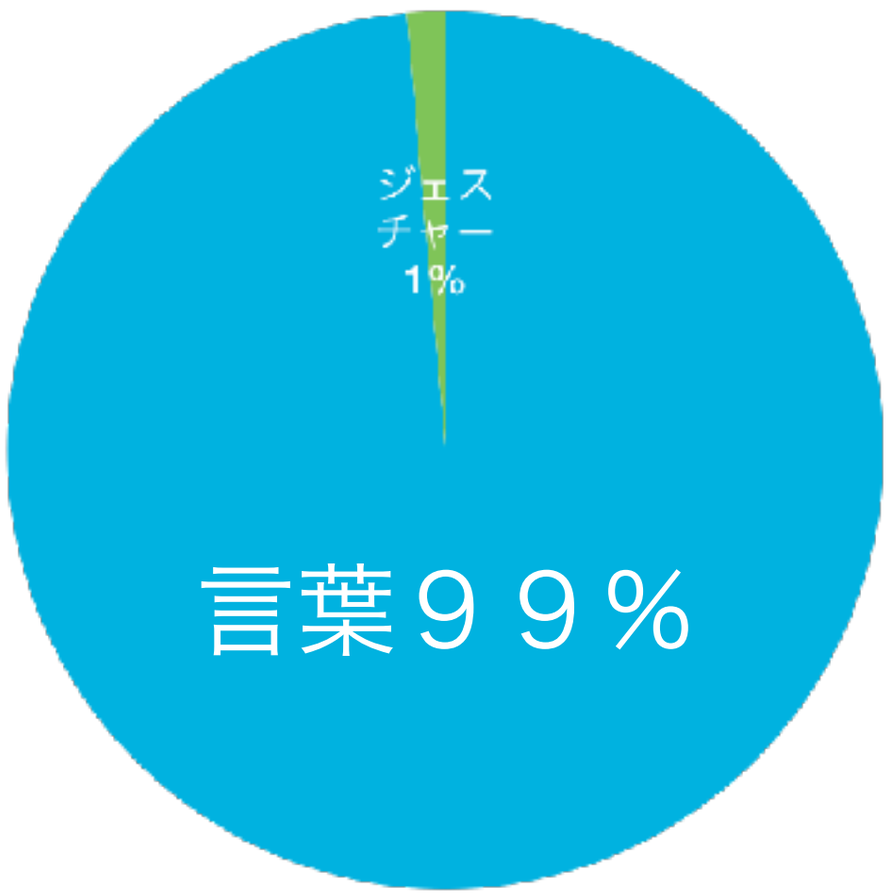
・自発的にコミュニケーションが出やすい場面に記録



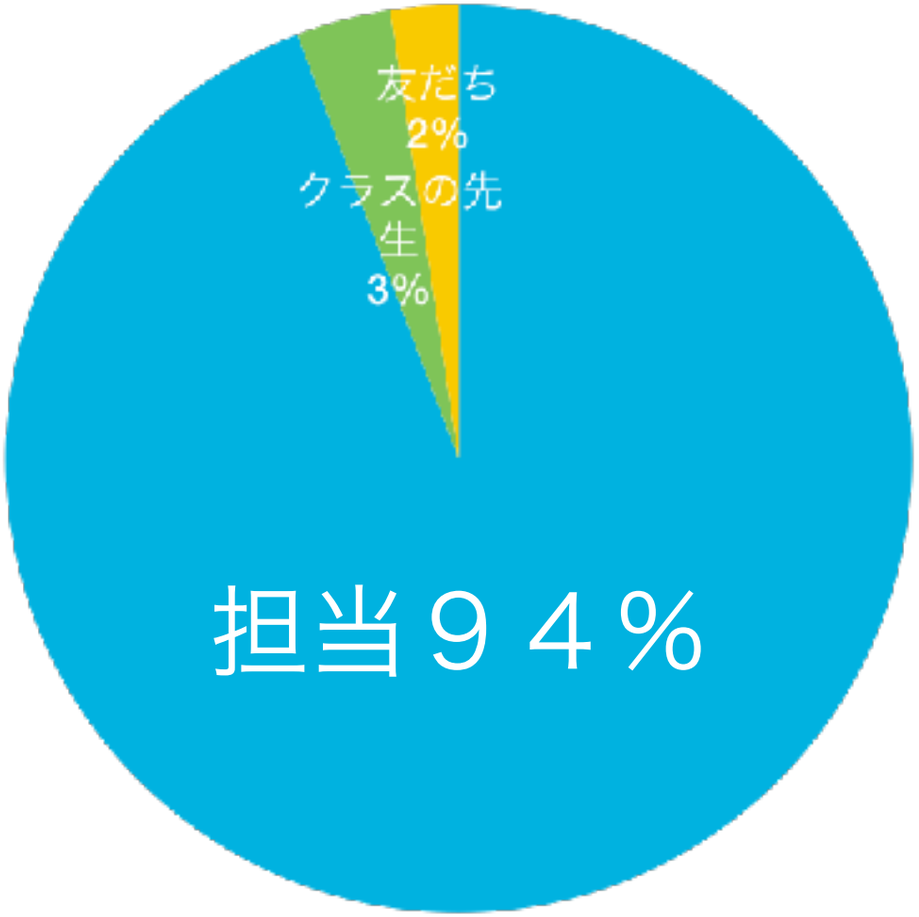
実践１－１　コミュニケーションの実態（手段・相手）

・ほぼ言葉で伝えようとしている
・相手はほとんどが担当教員

手段

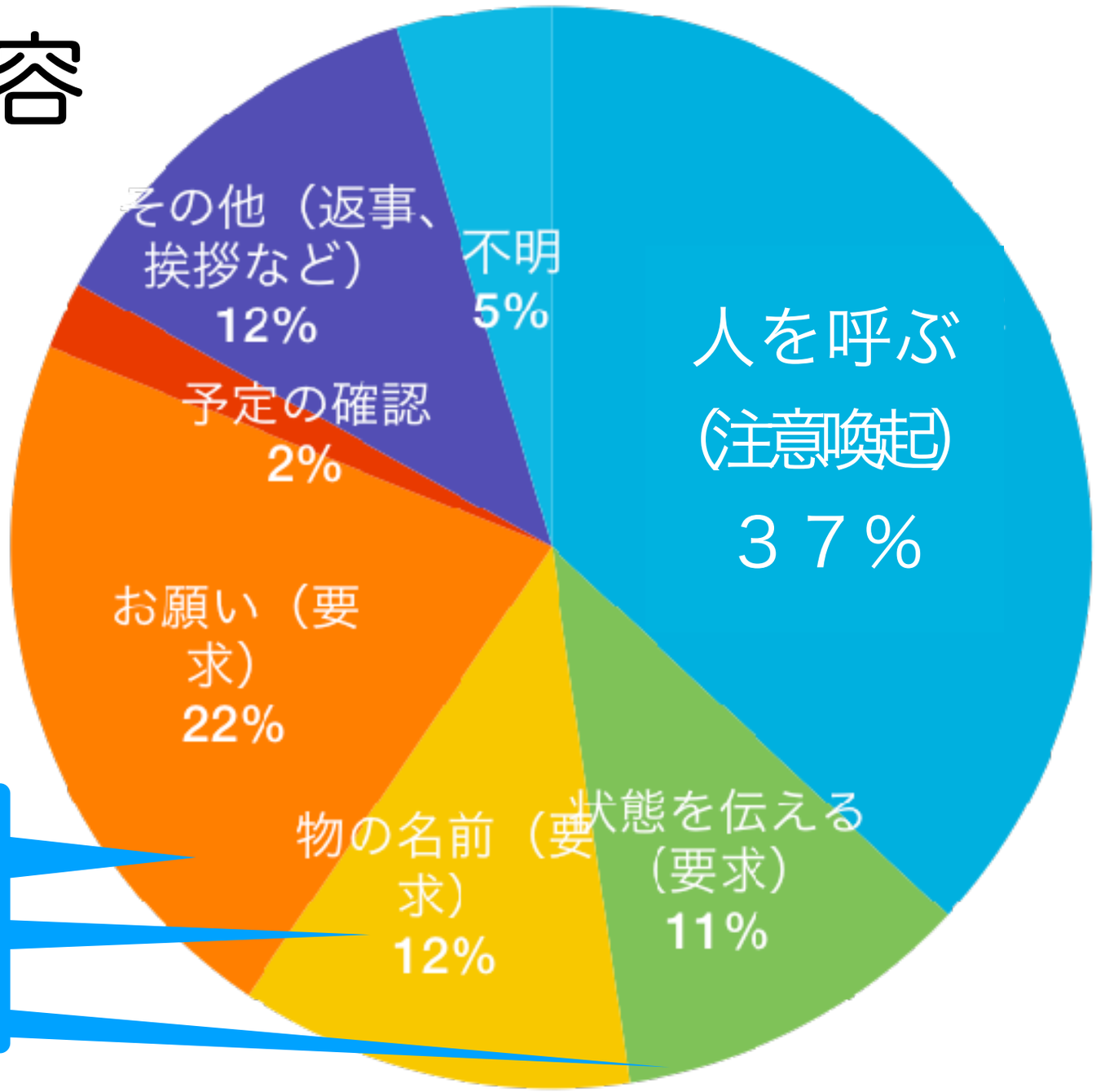


相手



実践１－１　コミュニケーションの実態（伝える内容）

内容



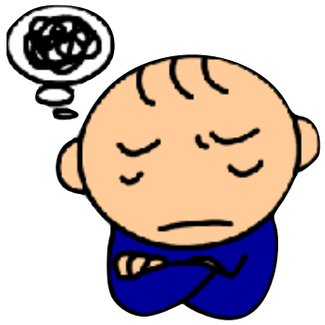
人を呼ぶこと

要求

実践１－１　記録をつけてみて

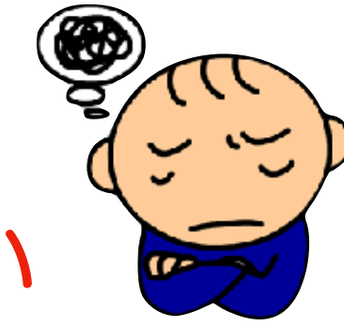
・実は思っていた以上に、たくさんの単語を発しているが伝わっていない

・相手や場面が限定的



・要求は「とってください」「拾ってください」が多い

・一人で活動できていない



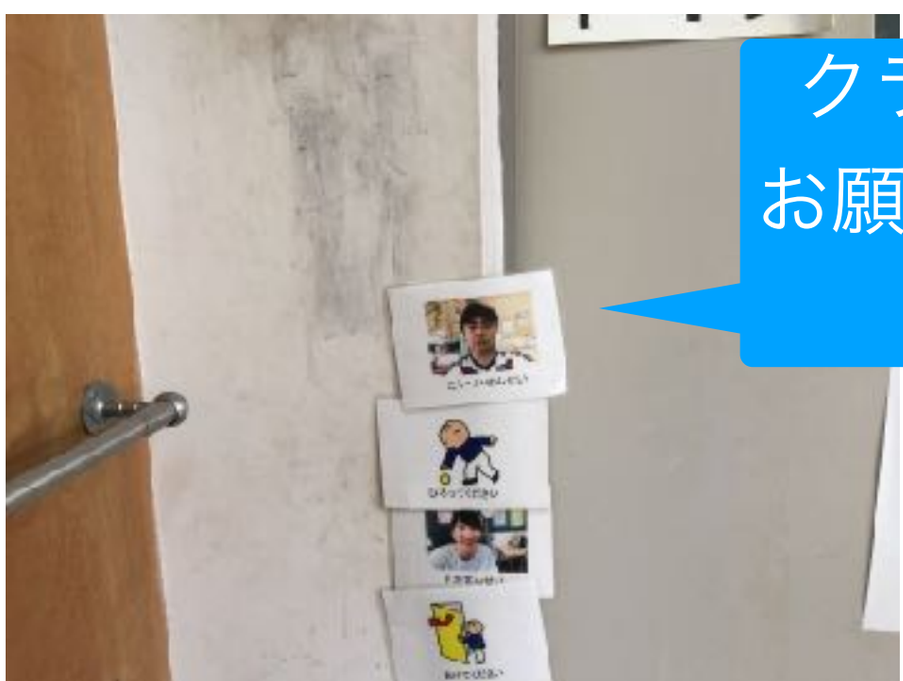
実践２の取り組み　「環境づくり」　「一人でできる仕掛け」

実践１－２　写真・イラストカードの活用

言葉以外の手段を広げる

Kくんと支援者が視覚的にわかりやすい

教室の要求が出やすい
場所５箇所

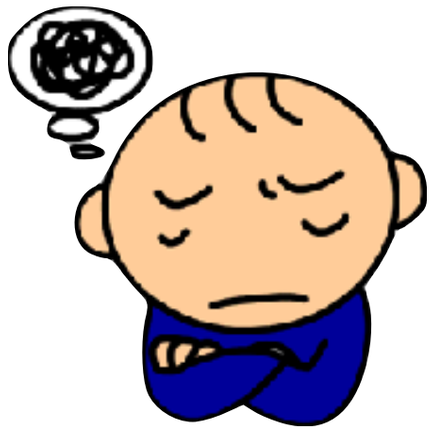


クラスの教員２名
お願いや物の写真・
イラスト

呼びたい先生を選ぶ
要求を選ぶ

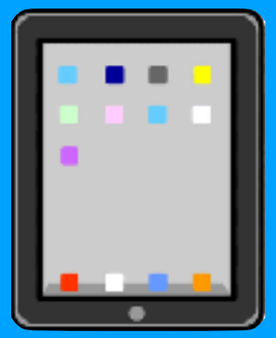
実践１－２写真・イラストカードの活用

写真・イラストカードは使いにくさも



- その場に来てからカードを剥がす必要
- 離れた場所から気づいてもらいにくい
- 手が届きにくい
- 剥がす時に落とす

実践１－３Droptalkの活用
(先生を呼ぶ)



持ち運べる・たくさん選択肢が作れる・音声が出る

車椅子に固定するアーム

音声が出る
たくさんのシンボルが作れる・配置できる

「先生・友だち」のキャンバス

写真は児童と一緒に撮影

・クラスの先生、同じ学部の先生、リハビリの先生、友だち　徐々に増やしていく

実践１－３Droptalkの活用
(先生を呼ぶ)

・iPadを使うことで、手元でタップしてして、支援者を呼びやすくなった
・音声で伝わりやすくなった
・支援者に気づいてもらえるのが嬉しい

言葉では伝わりにくいことを実感するために

・言葉のみの時には「誰を呼んでいるかわからないよ」と敢えてiPadの活用を促すことも

実践１－４キャンバスを増やす（してほしいこと・要求）

「してほしいこと・お願い」のシンボルを作る

キャンバスリンクをかける

人を呼ぶ

お願いを伝える

実践１－４　シンボルを増やす（してほしいこと・要求）

黒板をあげてください

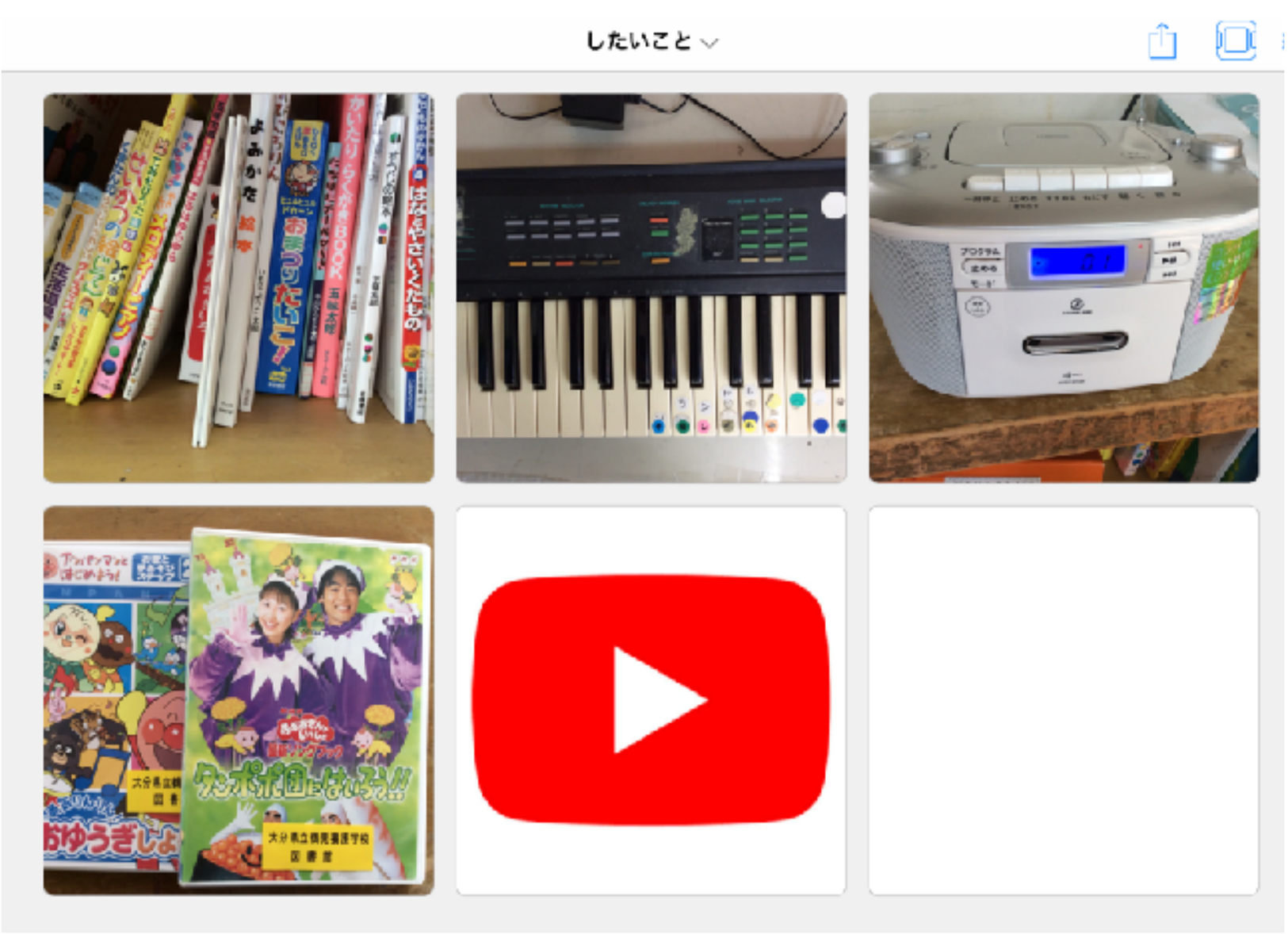
車椅子を押してください

服を脱がしてください

ウエットテッシュを注文してください

１ページにできるだけ多くのシンボルを配置

実践１–5伝えることを増やす（好きなこと）



しなければいけないこと
必要に迫られたことを伝える

したいこと（好きなこと）
を伝える・伝わる

実践１–5伝えることを増やす（体調）

お腹が痛い

頭が痛い

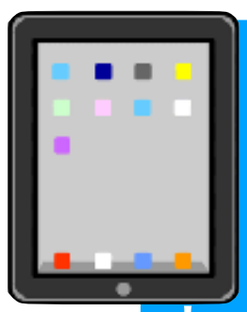
歯が痛い

寒い

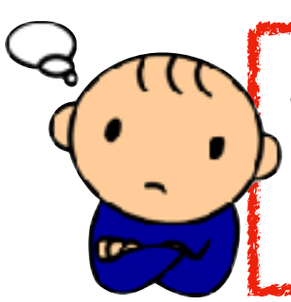
うまく伝わりにくことも伝えられるように

実践２　自分でできることを増やす

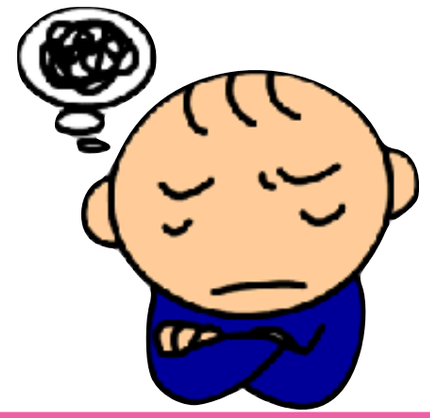
何かしたい



Droptalkで
支援者を呼ぶ
してもらいたいことを
伝える



要求できることも
大事だけど



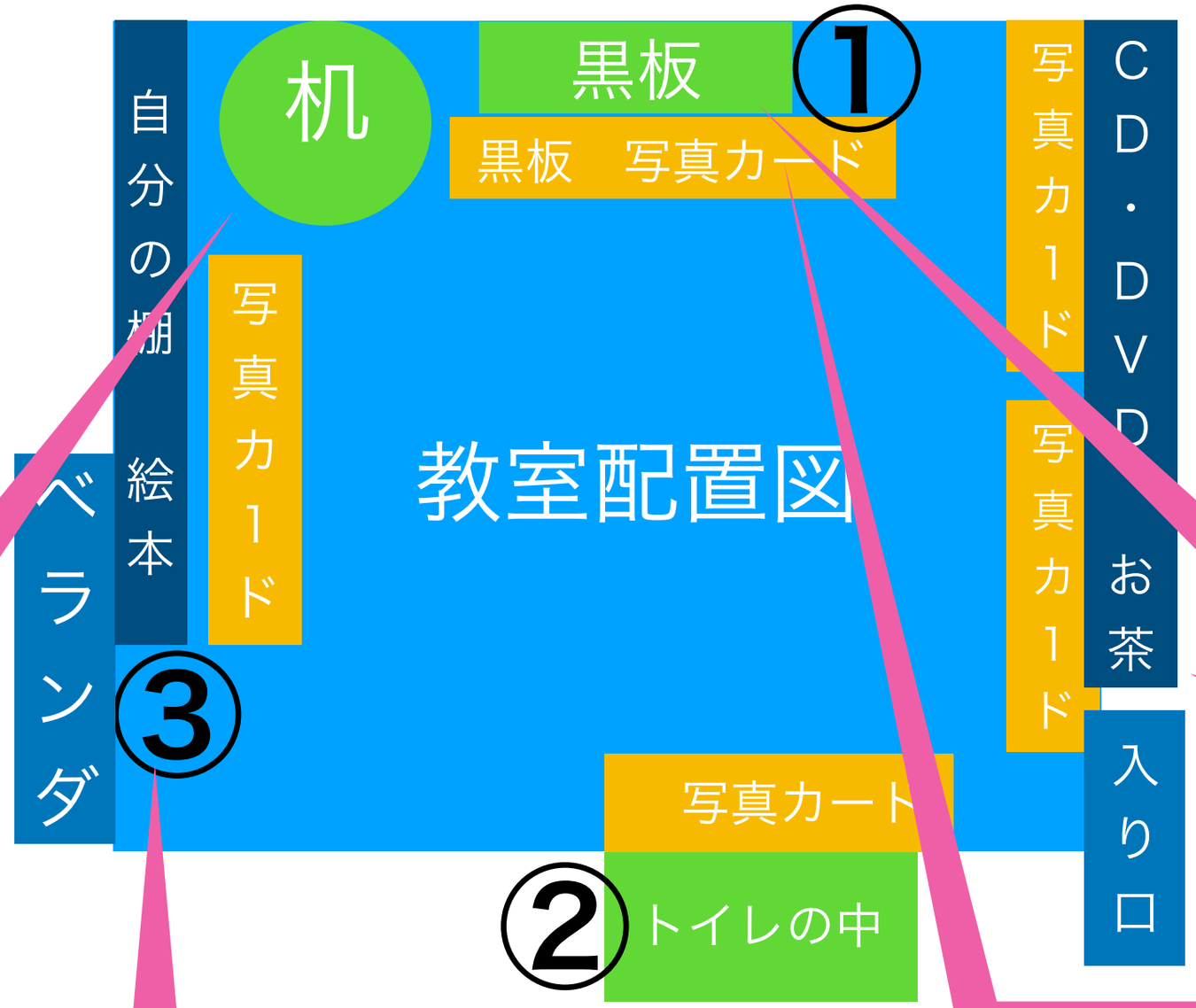
・物を取れない、落とす
・車椅子をうまく操作できない
・する順番がわからない
・人に頼っていることが多い

一人でできることはする

環境調整　役割を持たせる

実践２－１動きやすいように環境調整

活動の順番を提示して見通しを持ちやすく



物を置く場所・貼る位置の見直し

活動する場所にも順番を表示

車椅子を停止する位置の目安をテープで

自分で活動しやすくなる

実践２－２役割を増やす
（連携デバイスの活用）

コンセントでオンオフできる物を操作

リモコンでオンオフできる物を操作

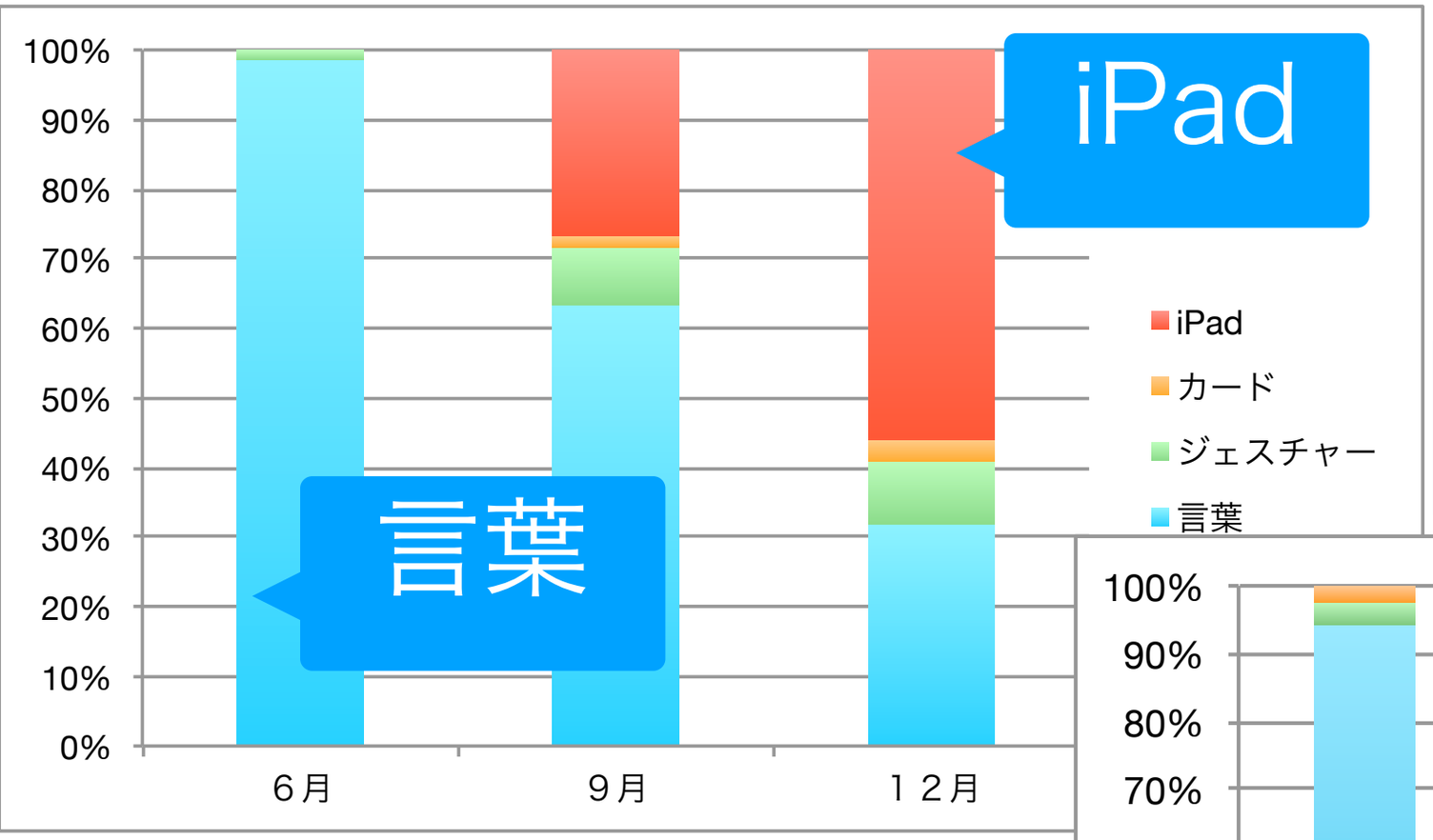
乾電池でオンオフできる物を操作

一人でできるを実感する

Kくんの変化

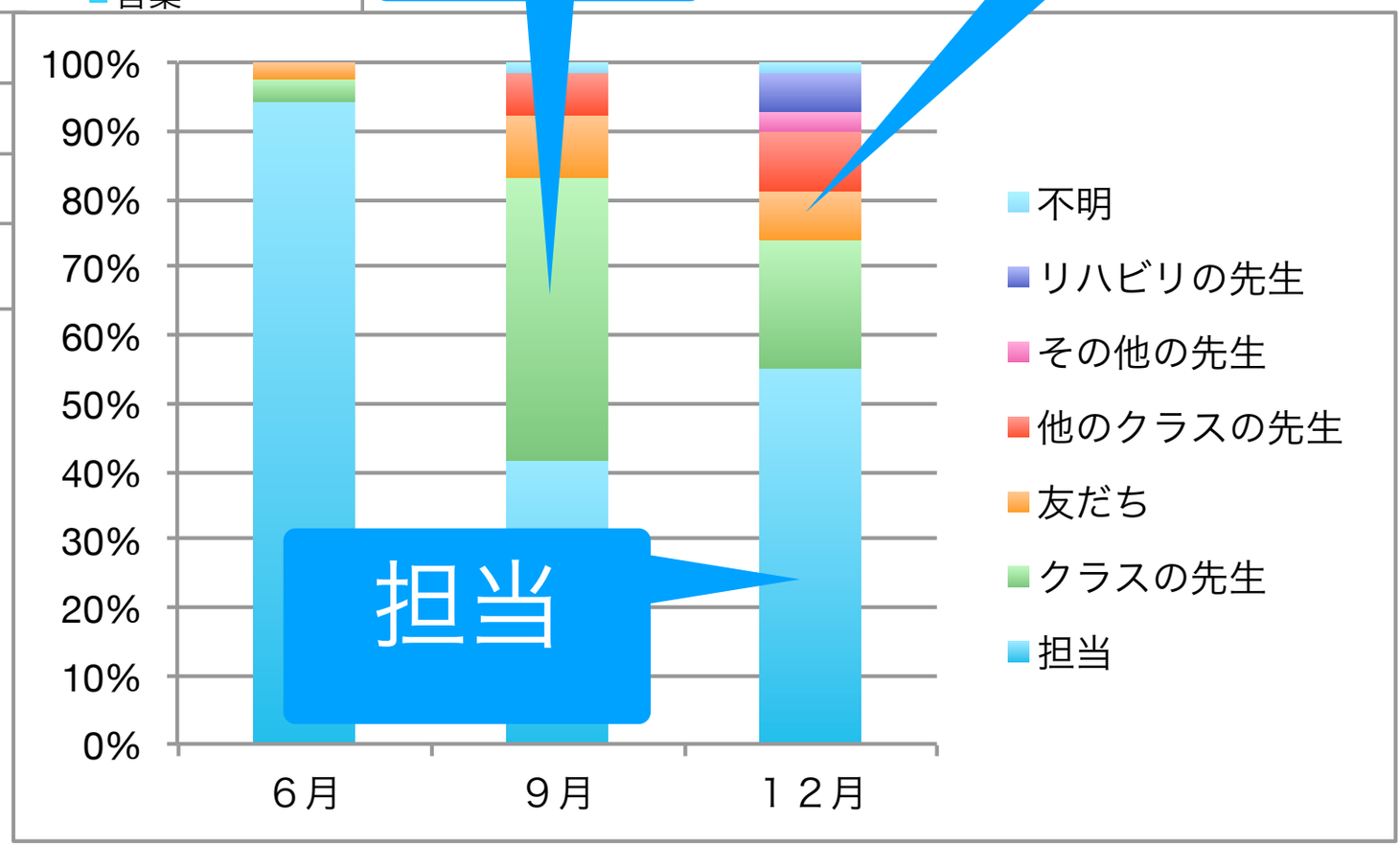
伝える手段・相手の変化

手段



・iPadで伝える割合が増えた
・状況に応じて伝える手段を使い分ける

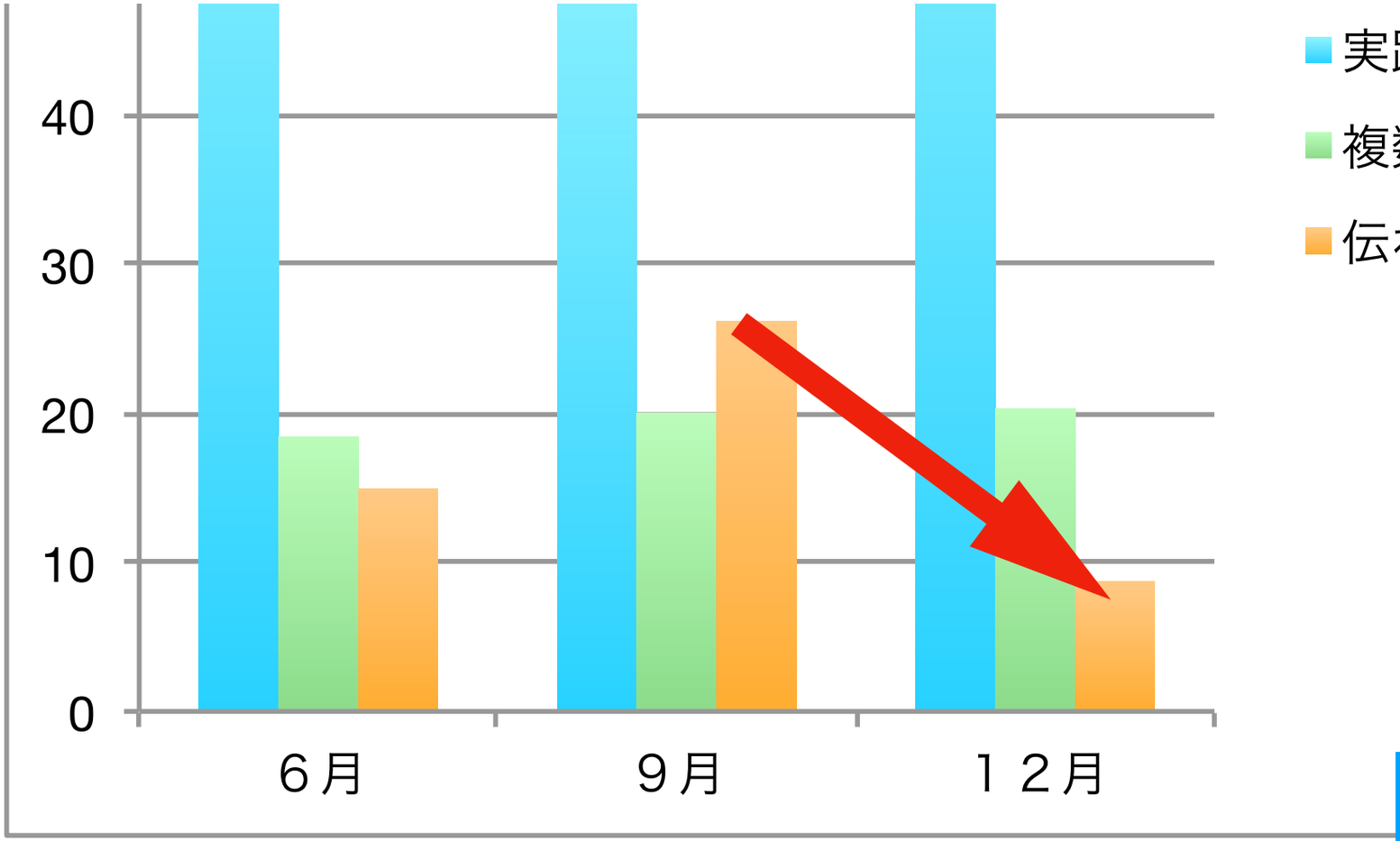
相手

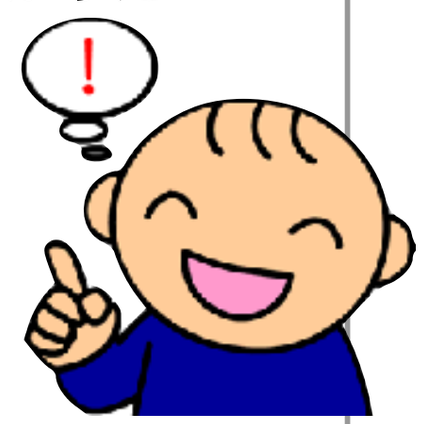


・クラスの先生、リハビリの先生、友だち
・Kくん自身が担当以外にも伝えたいと思うようになった

伝わらないことの減少

伝わること・伝わらないことの割合





担当以外にも伝えたいという気持ちの増加

一時的に伝わらないことが増えることも

選択肢を増やす
伝え方の学習で
伝わらないことが減少

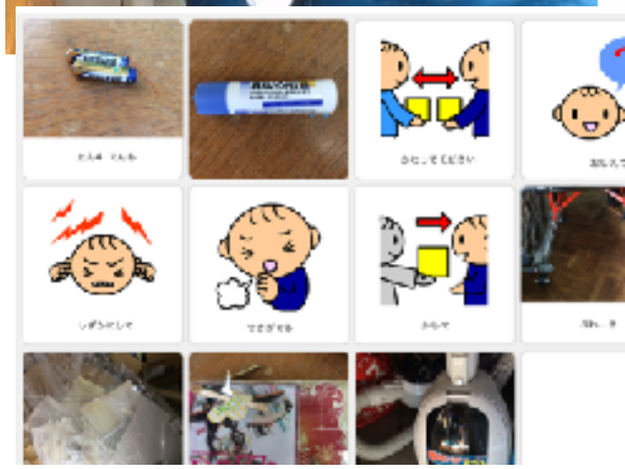
活用の広がり

修学旅行の
感想発表

スーパー
のレジ

ファミレス
のレジ

事務室に物品を
もらいに行く



交流活動

いろいろ場面、いろいろな人に

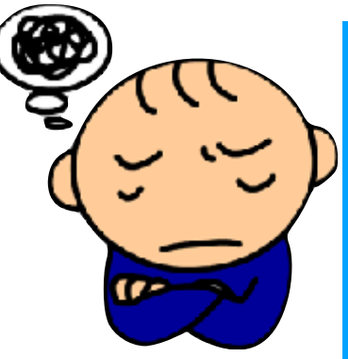
Kくんが伝える

リハビリの先生がいた場合

リハビリの先生がいなかった場合

リハビリの先生にわたす

Kくんが伝える



みんなの前では緊張で声が出にくい

事前に用意することで自信を持って伝わる

Kくんは、声が出るのに、、

Kくんの声も録音して併用することで
Kくんが伝えていることがわかりやすくなる

Kくんができる

係活動で水やりする

Kくんができる

離れた場所から
プロジェクター
の電源をオン

朝の会でプログ
ラムを投影する

自分も人の役にたつ！！

今後の課題

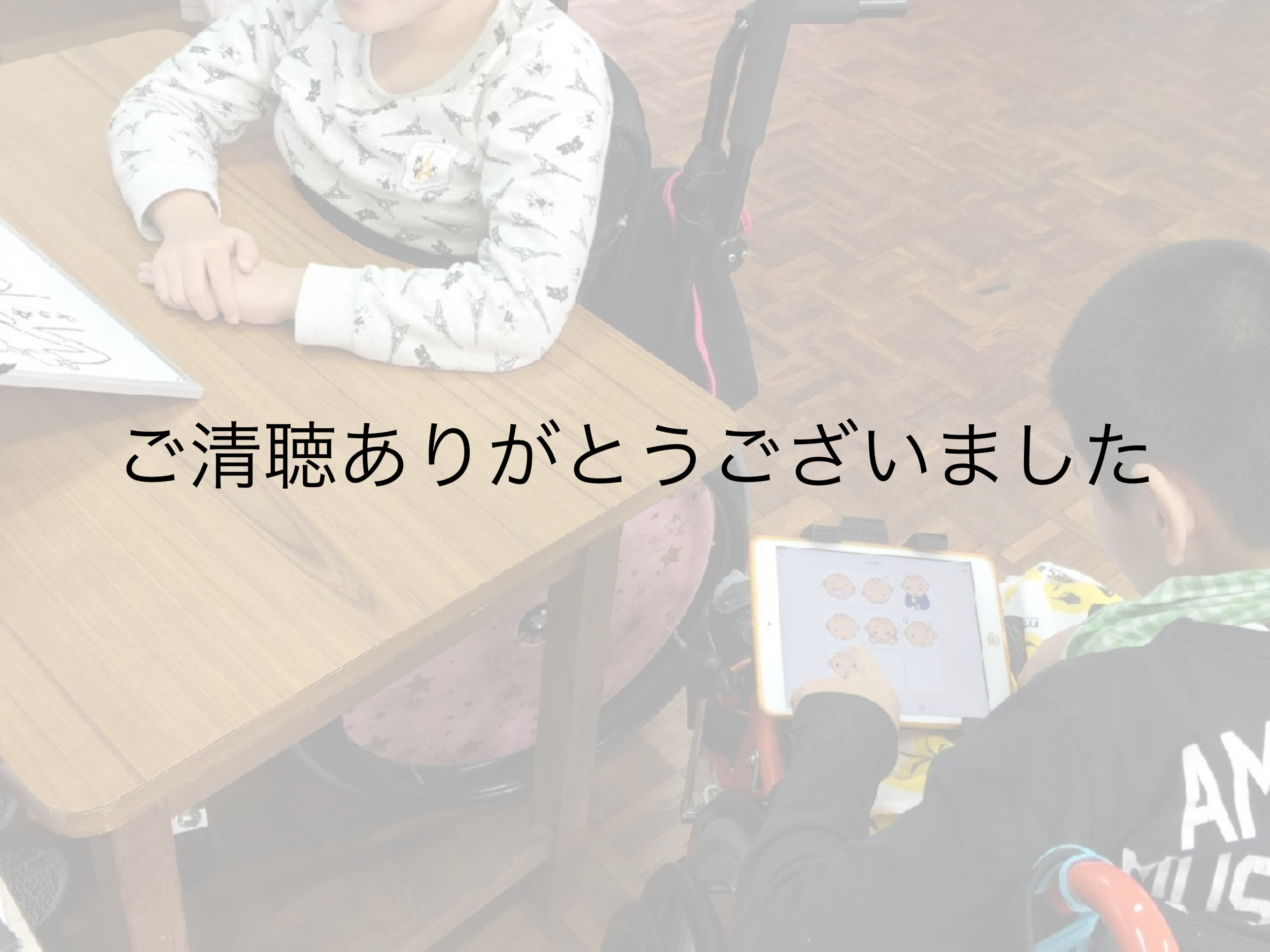
・操作性の向上

・リハビリとの連携

・保護者との連携

・やりとりができるように

より双方向の
コミュニケーション



ご清聴ありがとうございました